

# 緑ネットワーク通信

緑のネットワーク・まつど

代表：田中利勝

連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977

年会費：1000円

再スタートに向けて

## — 樹木の大切さを共通認識に —

田中 利勝

地球にも人にも、最も大切でありながら、現在では粗雑に扱われている生物、他の力を借りずすべてが自前で賄えてしまう生物、それが樹木たちである。まちにあっては防砂、防風、防音の役割を果たし、夏には木陰のそよ風を送ってくれる、さらに材となって家の建築にも使われ、炭、燃料となって生活を支える、あるいは小動物にとっては生活の場であり、避難場所であり、食料ともなる。枯れて大地を肥えさせ、その養分は川に流れて海に至る。遠く離れた生態系さえ森や樹木が支えている。何よりも樹木は日本の四季の豊かさを色彩の魔術師のように美しく演出し、人々に秘かな生命力を与えている。現在の都市に必要なのはそうした樹木パワーであろう。

松戸の樹林地約 2%という現状に驚愕しつつ、行政の無策を非難するばかりでは解決はもとより、減少の歯止すらできないことを3年間のゆるやかな緑のネットワークの意見交換などで学んで来た。

緑地の保全と再生にかける思いは松戸市も、私たちが同質であるはずだ。今回、広く市民に呼びかけ「緑のネットワーク・まつど」を会として再スタートしたのは、より多くの市民と共に松戸の樹木の現状を学び、樹木が絶滅に向かっているこの難問にみんなで取り組んでゆく必要があると思うからである。空気も樹木も都市に生きる私たち人間にとってはもっとも重要な存在であることを忘れてはならない。

新しいメンバーとの出会い

## 観察学習会「残したい松戸の樹林」



4月13日(日)、市の広報や新聞を見た人、「千駄堀を守る会」などのお知らせで知った方など26名と会員6名で松戸駅～千葉大園芸学部～浅間神社～神明神社～矢切公民館を歩きました。代表の田中利勝さんのご案内で、極相林や斜面林を観察しました。

お天気も良く、芽吹きを季節を迎えた木々の緑はとてもきれいで、気持ちの良い観察会となりました。

午後は山田純稔さんのパワーポイントによる説明で、松戸の緑の現状や樹林の効果、下総台地のおいたち、地形と樹林地、浅間神社の極相林と遷移のお話、斜面林の景観としての価値の高さ、雑木林の維持管理などを学びました。

参加者から、大変分かりやすかったと好評でした。

松戸の樹林地を残すには…→「緑のネットワーク松戸」の設立！ ということに参加者に会への参加を呼びかけたところ、11名の方がご入会くださいました。交流会では皆さんの緑や樹林地に対する思いなどを交換しました。

(渋谷)

## 観察会・学習会に参加して

川上 将夫

常盤平の川上といいます。「千駄堀を守る会」の会員です。私は生まれも育ちも松戸なのですが、今回の予定コースで行ったことがあるのは浅間神社だけということもあり、当日は小学生の遠足気分に参加しました。

千葉大斜面林、浅間神社極相林、神明神社周辺、矢切の斜面林、いずれも市内一級の樹林でしょうか。その薄緑の新緑がなんともいえずすばらしく、感動しました。

午後の学習会はとても良かったと思います。斜面林は面積が狭くても横から見ると緑がく見え、視覚上の効果（緑視率効果）が大きいとの話が一番印象に残りました。

私は常磐線の電車からよく斜面林を見ますが、確かに松戸は緑の多い地域に見えます。

観察会を実行してくださった皆さん、ご苦労さまでした。また次回7月も参加します。

### 参加者のアンケートより

- ・雑木林は私の子供時代の遊び場でありました。そのころには思いもよらない大切な役目があったのです。雑木林と極相林の違いの意味、人間による手入れの必要性とすべきでない場合、その違いの意味について子供たちに話していきたいと思っています。ありがとうございました。

## 総会報告

交流会の場をお借りして、簡単に総会を行いました。規約・会計(決算、予算)・事業結果、報告について承認されました。運営委員については別紙名簿の通り、会計は以下の通りです。

### 2002年度 決算報告 2002.4~2003.3

収 入	金 額	支 出	金 額	摘 要
前期繰越金	3,850			
参加費	13,400	会場費	12,000	例会参加費 会場費
計	17,250		12,000	
次期繰越金			5,250	
合 計	17,250		17,250	

### 2003年度 予算 2003.4 ~ 2004.3

収 入	金 額	支 出	金 額	適 要
前期繰越	3,050			
会費	30,000			30人×1,000円
行事参加費	36,000			4回分
		通信費	21,600	連絡費会報発送費、
		会場費	15,000	例会、行事会場費
		保険料	10,000	行事保険料4回分
		印刷費	8,000	コピー代など
		消耗品	3,000	事務用品、消耗品など
		交通費	3,000	交通費
		会議費	3,000	運営委員会会議費
		雑費	2,000	
		予備費	3,450	
合 計	69,050		69,050	

### 編集担当募集!

会では年に4回、会報を発行する予定です。  
編集作業を引きうけてくださる方を募集しています。  
**誰か オ・ネ・ガ・イ!**

### 今後の予定

**5月15日(木) 6月19日(木) 定例会 19:00~21:00**

新松戸駅より徒歩3分 赤木神社内の幸谷公民館にて。誰でも参加できます。

会としての本当の再スタートとも言える定例会になります。

今後何をしていたら良いか、みなさんで話し合ひましょう。

**7月13日(日) 観察・学習会「残したい松戸の樹林②」**

9:30 新京成 八柱駅北口ロータリー集合 千駄堀の樹林地~「21世紀の森と広場」

午後は八ヶ崎市民センターにて学習会

# 緑ネットワーク通信 (仮)

緑のネットワーク・まつど  
 代表：田中利勝  
 連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977  
 年会費：1000円

## 「身近な自然を守りたい」

山田 純稔

今回、緑ネットで観察・学習会をおこなった千駄堀には、特別な思いがある。

高校1年の時、松戸市小金原に転居した私は、休みの日には自転車に乗って散歩。偶然、緑豊かな千駄堀を発見し、以後、千駄堀通いがはじまった。特に春の千駄堀は、シュンラン、ヒトリシズカ、イカリソウが美しかった。

その後、より美しい自然を求めて、大学時代は尾瀬やアルプスへ。そして、就職して、再び地元にもどってくる。

その頃、千駄堀が公園になることが決まる。「開発されないでよかった」と思ったのも束の間。実際に工事が始まると、千駄堀は無残な姿に変わっていく。「この工事は、千駄堀を守る工事じゃないんだ」という思いから、『千駄堀を守る会』がはじまった。

はるかな尾瀬は美しい。でも、日々暮らしている身近な自然も残ってほしい。シュンラン、ヒトリシズカ、イカリソウは、今ではほとんど見られない。メダカも絶滅危惧種になる時代だ。

松戸市の山林の面積は、わずか2%だという。以前、「20年後、何%になっているのですか？」と市に聞いたが答えてくれなかった。

緑ネットを大きく育てよう。そして、緑を大切にする市民の輪を広げ、市政を変えていこう。

## 「7年間の活動と

## 今直面しているもんだいについて」

関 美智子

(関さんの森を育む会)

森をいつまでも森のままに残すために、1995年に約1.1haの屋敷林を埼玉県生態系保護協会に寄付し、翌年、その森を都市化の波の押し寄せる以前の豊かな生態系に戻すことを目的に、「関さんの森を育む会」を設立しました。

この会の活動の軸は、森を育む作業です。斜面の表土流出防止のための柵づくり、湧水池の掃除、林内の橋や柵の修理、植樹、下草刈り、梅もぎ、梅干づくり、剪定など、作業は多岐にわたります。

森の斜面に落ち葉が溜まり、カキ、シイ等の幼苗が生えはじめたことは活動の1つの成果です。その他、シュンラン、キンラン、ヤブミョウガ等が増えたことや、少しずつ竹林が雑木林へ移行していること等が、成果としてあげられます。

一方、課題としては、周辺の緑地の激減や宅地化等が原因で、森の動植物の生息、生育環境が悪化していることです。

今、私たちが直面している問題は、森の際からの開発です。7年前には森の東側だけが住宅地と接し、他の面は森や畑と接していました。ところが、現在では南側も、北側も開発が進行中です。さらに区画整理事業によって、森の西側の「赤道」の古木までもが10数本伐採されようとしています。これらの木々の保全を行政に陳情するために署名活動を展開しています。9月9日現在で6000人を超える署名が集まっています。この署名にこめられた住民の思いが区画整理事業関係者の心を動かすことを期待してやみません。

## 第2回観察学習会「残したい松戸の樹林」

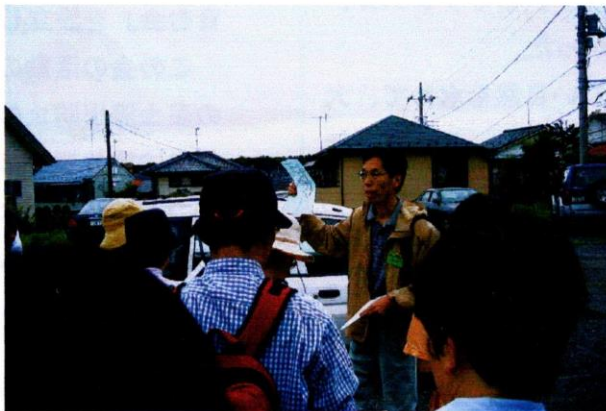
### 千駄堀の樹林観察会に参加して

北山 繁

今回のコースは30年前の私の通勤路でした。小金原団地から自転車で千駄堀を抜け、坂をあがって県立松戸高校の前を通って専大松戸高校に到る約40分程の距離、当時の千駄堀はまだ21cの森公園はなく、今の芝生が敷かれている所には谷津田があり、池の辺りは一面ヨシ原の湿地帯だった。その当時は仕事に追われて自然には興味がなかったが、千駄堀の中を通る時には四季の移ろいを肌で感ずることができる景色があった。時間に余裕のあるときは公園外の雑木林で森林浴を楽しんだものでした。その頃はまだ産業廃棄物はなく良い自然状態が保たれていました。

今回の観察会では自然観察のリーダーの解説つきで、いろいろ新しい発見があり興味津々でした。それにしても産業廃棄物の投棄や一部森林の伐採があり興覚めの点があったが、急速に開発が進んでいる松戸市内に、このような豊かな自然がまだ残っているということは奇跡に近いのではないかと感じた。

今は宅地になっていますが、縄文時代の遺跡があったそうです。(川上さんのお話)



市の森林面積は全体の2パーセント台とのこと、しかもその殆んどが私有地とのこと、いずれ開発が進められることは間違いない。残された貴重な自然を市民の憩いの場（森林浴にコース）や子供たちの自然観察の場として残してもらいたいものだ。

法的には土地の所有権は基本的人権として保障されるが、しかし憲法上では「公共の福祉」のためにはある程度制約を受けるのはやむを得ないとしている。欧米では環境倫理学の立場から、地球の良好な環境を保全することは人類にとって最優先の課題とし、人類にとって良好な環境を守るためには基本的人権（所有権、財産権を含む）も制限されなければならないという命題が常識化されつつあります。いろいろ困難な状

況にあるが、市民の切なる要望として、千駄堀の森を含めて市内に残る数少ない森を市民の貴重な財産として残してもらおうよう市当局に訴えていく必要があるのではないか。この

ことは急を要する問題であり「松戸のみどりを守るネットワーク」がその中心となって活動してもらいたい。今回の観察会に参加してこのことは痛切にかんじました。

#### 今後の予定

9月18日(木) 定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤木神社内の幸谷公民館にて。誰でも参加できます。

10月12日(日) 観察・学習会「残したい松戸の樹林③」

9:30~14:00 JR常磐線北小金駅 9:30集合

東漸寺~幸谷のシイの巨木~関さんの森~溜の上の森

※今回は会場手配ができませんでしたので、観察しながらの学習となります。

参加費： 300円 持ち物：弁当、のみもの、雨具など

# 緑ネットワーク通信(仮)

緑のネットワーク・まつど  
 代表：田中利勝  
 連絡先：渋谷孝子 TEL&FAX047-348-7977  
 年会費：1000円

## 市民の手で森を残す「はじめの1歩」

高橋 盛男

減少の一途をたどる松戸の樹林地。しかし、樹林所有者には、先祖から受け継いできた森を何とか残していきたいと思って居る方も数多くいます。そうした方々が困っていることのひとつが、樹林の管理です。手入れが十分にできず、近隣からの苦情にさらされ、樹林を手放してしまったり、林縁の木を切ってしまうケースが少ないのです。

一方で、緑の保全を望む私たちは、樹林をよりよいかたちで残し、次代に引き継ぎたいと考えています。この両者のニーズを結びつけることができないかと発想したのが、森林ボランティアによる樹林のお世話です。

市民の手で緑を残す。これに共感して下さる方に、樹林手入れの基本を知ってもらおうと下記の講座を企画しました。松戸市緑推進委員会がみどりと花の課と共催し、初めて試行する5回の講座です。

全体企画は、緑ネット会員の渋谷孝子さん。座学よりもフィールドワークを多くしました。ぜひご参加ください。

## 「関さんの森」赤道の樹木を救う

署名活動について

関さんの森を育む会・武笠紀子

関さんの森の樹木を救うための署名活動に、ご協力頂きありがとうございました。10月までに9000名を超える署名を松戸市長に提出しています。市からの回答は、残念ながら、〈赤道の樹は境界線上の1本を除いて全て切り、予定通り工事を行なう〉というものです。再考を求めて市長に面会を申し入れましたが、忙しいということで断られて、再度申し入れをしているところです。このまま予定通り工事が行なわれれば、森の中の樹も根を切られて危険です。

署名活動も陳情も続けていきますので、市長さん宛にファックスやメールで皆さんの意見を送るなど、今後もお力添えをお願い致します。

市長宛メール：mcmayor@city.matsudo.chiba.jp  
 市長宛ファックス：047-366-2301

～身近な緑を知る・守る5つの体験～

## 里山ボランティア入門講座

### ① 11月12日(水)「里やまって何だろう」

講師：高野史郎氏(県環境アドバイザー)

場所：21世紀の森と広場

### ② 11月26日(水)「都市の緑の役割」

講師：柳井重人氏(千葉大園芸学部助教授)

場所：まつど市民活動サポートセンター

### ③ 12月10日(水) 森の手入れ体験(その1)

場所：関さんの森(松戸市幸谷)

### ④ 1月14日(水) 森の手入れ体験(その2)

場所：金ヶ作の森(松戸市金ヶ作)

### ⑤ 1月28日(水) 交流とまとめ

場所：21世紀の森と広場

## 参加者募集中!

定員：20名(まだ若干の空きがあります)

費用：3000円(5回分、保険代含む)

共催：みどりと花の課・緑推進委員会

申し込み：往復ハガキに、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話(FAX)、応募した理由を記入し、下記へご送付ください。

〒271-8588 松戸市役所みどりと花の課

松戸市緑推進委員会事務局

問い合わせ：366-7378

### 第3回観察学習会「残したい松戸の樹林」

#### 森に生かされている私たち

藤田 隆

10月12日、北小金の駅に集合。朝早くから降り続いた雨も上がり、ひんやりとした風が流れる。駅から東漸寺に向かう。境内に入ると枝を縦横に伸ばしたクロマツが目に入る。幹回り2メートルは超え、300年は経っているとの説明。隣には枝垂れ桜、こちらも幹回りは2メートルを有に超え、東葛地区でも有名な桜だ。同じ境内に種子を蓄えた菩提樹がある。種子もホウヨウをつけ珍しい。東漸寺の斜面林を降り、旧水戸街道を東京方面へ向かう。途中斜面林が顔をあらわす。大きな樹が伐採され、幹を残している。しばらく行くと関さんの森に着く。

斜面から落ち込んだ低地にザリガニや小魚が息する湧水池がある。「関さんの森を育む会」が毎月の森の手入れ作業で再生させ、豊かな自然が息づいている。ところが、周囲20メートルたらずの池にも電気製品や自転車の不法投棄が後を絶たないという。参加者はみな首を傾げる。斜面を少し上がると栗の大木がある。栗は松と同様、水に強く鉄道の枕木にされるなど重宝された材だ。栗の大木は東葛地区でも珍しいようだ。大木は回りの樹木に支えられて維持できる。大木一本では生きられない。これこそ「人間界に通じる自然の摂理」ではないか。「木を見て森を見ず」ということわざを思い出してみる。森とともに生活していた頃に身に付けた思考に納得する。

関さん宅に入ると幹周り347cmのソメイヨシノが迎えてくれる。100年を迎えるそうだ。

溜めの上の森に向かう途中スダジイがゆったりと枝を広げている。これも大きい。幹周り560cmと415cmの二本のスダジイが枝を広げひとつになって丘の上から時の流れを見つめてきたのだろうか。すぐ側まで戸建て住宅が迫っている。スダジイの行く末はどうか。宅地開発業者の餌食になるのは時間の問題なのだろうか。ここにも「守る会」が必要なのかも知れない。

溜めの上の森では木下さんが「この森には森の問題のすべてがあります」と説明。周辺の住宅との関係、緩衝帯を取ること、他の植物の生育を阻むモウソウチク、手入れ作業など都市にある森が抱えることが集約されている。5年前には人を寄せ付けなかった森が手入れ作業で人が入れるところまで生き返った。手入れ作業に入る際、樹木の一本一本を調査するところから作業が始まったという。こうした地道な作業が森を支え、昆虫や植物の生きられる生態系を支え、人間の生活を支えている。

観察学習会を通じてその気持ちは一層強くなった。



森の中央で関さんのお話をうかがいました

#### 今後の予定

11月20日(木) 12月18日(木) 定例会 19:00~21:00

新松戸駅より徒歩3分 赤木神社内の幸谷公民館にて。誰でも参加できます。

1月11日(日) 観察・学習会「残したい松戸の樹林④」

9:30~14:00 JR武蔵野線東松戸駅9:30集合

雨天決行、申し込み不要

参加費: 300円 持ち物: 弁当、のみもの、雨具など